2022-2023年度

Rotary
丸亀ロータリークラブ

イマジン
ロータリー

RI会長 ジェニファー・ジョーンズ

まるがめ

週報

2022.7.21
Vol.60
№3
（2863）

会員数 59名　出席者40名・欠席者17名・免除会員6名
欠席者　天野・麻田・後藤・和泉享・岸上・松山・加内・中野和・中野昌・大山
曽川・松村・齋賀・大西信・谷本-会員

前々回出席率　81.13%（7/7）

MARUGAME ROTARY CLUB WEEKLY

会長　和泉 清憲
幹事　細谷 誠
会報委員長　大西 信亮

お知らせ

∵ 8月のプログラム
4 (№1)-クラブフォーラム
11 (№2)-休会
18 (№3)-60周年特別委員会
25 (№4)-夜間例会

∵ ニコニコBOX;
よいことがありました
秋山憲夫君
香川大学の先生をお迎えして
和泉君

<ニコニコ会計累積/￥76,000>

∵ がんばるBOX;
早退します
東原君　谷川君

<がんばる会計累積/￥31,000>

例会場・事務局　丸亀市塩飽町50―3　丸亀プラザホテル内

■会長挨拶
スペイン風邪と新型コロナ

1918年から19年に流行し、世界で5億人が感染したと言われるスペインかぜ。多くの都市で劇場や映画館が営業停止を余儀なくされ、一般市民の集会も禁止されました。そのような状況の中、当時のロータリークラブはそれぞれの活動に変更を加えつつ、感染者への支援にもあたりました。新型コロナウイルスが世界的に流行している現在のように、当時のクラブも状況に適応して行動する意欲に満ちていました。ロータリアンは各地のガイドラインに従って例会の開催方法を工夫し、自治体や医療従事者に必要な支援を提供しました。当時は米国外でのロータリーの存在感はまだ薄かったため、このような活動の多くが米国で行われていました。今、新型コロナウイルスに対するロータリーの対応は世界規模で実施されています。

1918年、カリフォルニア州サクラメントとバークレーのロータリアンは、換気の悪い場所での会合を禁止する地元の規制に従い、屋外で例会を開きました。2020年、クラブは例会をオンラインで開催し、つながりを維持しています。

1918年、カンカキー・ロータリークラブ（イリノイ州）は資金を調達し、赤十字社のソーシャルワーカーがスペインかぜの流行中、国内を移動するために使用する車両の購入を支援しました。2020年、第3700地区（韓国）のロータリークラブが155,000ドルを赤十字社に寄付しました。周りと協力して変化を起こすロータリーの力は当時よりも大きくなっています。

1918年、ノースカロライナ州シャーロットの20数人のロータリアンがボーイスカウトのメンバーと協力し、スペインかぜの拡大防止に関するチラシを迅速かつ効果的に配布しました。2020年、イタリアを拠点とするフェニーチェ・デル・トロント・ロータリーEクラブは、一般の人びとをオンライン例会に招き、ウイルス学者による新型コロナウイルスの解説や、感染拡大の経路、安全を保つ方法に関する知識を深めました。

1918年、ノースカロライナ州ウィンストン・セーラムのロータリアンは、救急病院のためにベッドを確保したほか、ボランティアで救急車の運転手となり、市の健康調査でも協力しました。2020年、フィリピン・マカティのロータリアンは、複数の救急隔離施設の建設に資金を提供し、パシグ市立こども病院に入院していた感染者で、集中治療が不要となった患者を収容する回復センターなどの設立を支援しました。

1919年、『The Rotarian』誌は、スペインかぜが猛威を振るう中、モンタナ州グレートフォールズの「ロータリー・インフルエンザ・チーム」が、支援要員を雇わずに、自分たちの手で必要な支援をすべて行ったと紹介しています。2020年、地域社会に対するこのような奉仕の精神は、メトロ・ベセスダ・ロータリークラブ（米国メリーランド州）にも受け継がれ、同クラブの会員は、自宅隔離を余儀なくされている一人暮らしの人たちと連絡を取り、体調を尋ねたり、必要なものを届けたりする取り組を行っています。

■幹事報告
①例会終了後、呉さんが林委員長の案内で丸亀城に行きます。
お時間のある方は是非ご一緒してください。

2022.7.21
Vol.60
№3
（2863）

■委員会報告：
①岡田60周年記念事業委員長より各会員の60周年記念事業案についての説明。
②秋山実行委員長より記念事業案の補足説明。
③富田60周年総務委員長より例会終了後委員会のご案内。

■例会事業；香川大学教育学部准教授　大久保智生様
「地域の安全を守るために、地域住民参加型の防犯教育アプリを開発したい」
・地域防犯活動と課題
現在、ボランティアを主体とした地域防犯活動は岐路に立たされています。
活動に参加する人が特定の高齢者世代でほぼ固定化されていて、
高齢化　②参加者不足　③資金不足　④後継者不足　⑤マンネリ化
の5つの課題が明らかになっており、特に若い世代のボランティアの育成と高齢者世代のボランティアの活性化が求められています。
・子どもの犯罪被害への不安
子どもが被害を受ける犯罪の数は減少していますが、多数の大人は子どもの犯罪被害に対する不安がいまだに高く、地域安全マップ作りは子どもの防犯意識の向上に有効な手段です。
・犯罪の背景理論
犯罪原因論は人に注目（犯罪が発生してから、犯罪の原因を追究し、解明して、その原因を防ぐという考え方です。）
犯罪機会論⇒場所に注目（犯罪者から犯行の機会を奪うことで被害を未然に防ぎ、地域の安全を確保しようとする考え方です。）
・犯罪被害に遭わないための考え方
犯罪企画者⇒（接近）⇒被害対象者，被害対象物のため、事件発生犯罪企画者が被害対象者(物)への接近を制御するため、地域住民(目撃者)からの監視性と領域性の高い場所は犯罪が起きにくくなります。
・犯罪が起こりやすい場所の見分け方
領域性が低い場所は入りやすいため、怪しまれずにターゲットに近寄れ、犯行後に逃走しやすくなります。監視性が低い場所は見えにくいので、犯罪者が隠れることができ、犯罪に及んでも発見されにくくなります。
・犯罪が起こりやすい場所の一例としては、周囲から見えにくい道路や地下道、公園のトイレや公園の植え込み、マンションなどの駐車場や自転車・バイク置き場（キーワード：入りやすくて見えにくい場所）
・犯罪被害の予防法
まず、犯罪が起こりやすい場所を知り、このような場所に近寄らないようにして、犯罪者（被害）に遭う機会を減少させます。
・防犯ウオーキングアプリ「（みんなで創ろう誰もが楽しく参加できる地域防犯のプラットフォーム）歩いてミイマイ」の開発
現在いる場所は、青丸で表示され、既に報告した箇所には旗が立つ設計され、安全な箇所は青い旗、危険な箇所は赤い旗で可視化できます。
・学習コンテンツの開発
問題は、類似する2つの景観を提示し、危険であるかを考えてもらう形式で、「次へ」を押すとその問題の正答と解説が表示されます。
・学校や地域での実践と評価
これまでに多くの学校や地域で活動を実施しました。（.事前学習として、犯罪の起きやすい場所の特徴を学びます。→ 2.フィールドワークとして、大学生に付き添ってもらいアプリを試します。また、アプリを通して危険個所を記録します。→　3.事後学習として、情報を共有して理解を深めます。）
・今後の展望
これまでに教育を行ってきたが、様々な防犯活動に活用していただきたいです。→ウオーキングやランニング、犬の散歩などを行いながら、気軽な防犯活動「ながら見守り」を推進し、多くの人に届けていきたいです。→現在、アンドロイド端末のみ使用可能なので、多くの人に使ってもらい、地域の安全・安心に寄与したいです。
・今回のクラウドファンディングで行いたいこと
地域防犯活動への敷居を下げ、地域の誰もが楽しみながら参加・貢献しやすくし、安心で暮らしやすい社会を実現します。
・クラウドファンディングのお願い
地域の安全・安心のためにぜひ支援をお願いします。（現在目標額の7割まで達成）